

平成31年1月9日
学校教育課

- 1 実施日 平成30年10月24日（水）
- 2 実施対象 府内中学校及び義務教育学校（95校）特別支援学校（1校）
- 3 実施教科及び受検者数 国語 9,194人 数学 9,195人 英語 9,196人
- 4 問題内容及び問題数
 - (1) 基礎・基本に関する問題・・・20問
 - (2) 活用に関する問題・・・5問
 - (3) 質問紙調査・・・51問（学校独自に設定できる質問2問を含む）

平成30年度京都府学力診断テスト（中学2年生）を実施しました。学力調査と質問紙調査の結果について概要を報告します。

学力調査の状況

■ 学力については、国語・数学・英語ともほぼ定着しているが、一部の領域に課題が見られる。

- ・国語
 - ◆ 「話すこと・聞くこと」及び「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の領域は、定着している。
 - ◆ 「書くこと」の領域はほぼ定着しており「読むこと」の領域に一部課題がある。
- ・数学
 - ◆ 「数と式」の領域は定着しており、「関数」の領域は、ほぼ定着している。
 - ◆ 「図形」の領域に一部課題があり、「資料の活用」の領域に課題がある。
- ・英語
 - ◆ 「聞くこと」の領域は、定着している。
 - ◆ 「書くこと」の領域はほぼ定着しており、「読むこと」の領域に一部課題がある。

質問紙調査の状況

■ 授業については、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた改善が進んでいる。

- ・「授業では、みんなで話し合う活動をよく行っている」（番号2）の質問に対して「当てはまる」と回答した生徒の割合は57.2%で、昨年度より4.1ポイント、28年度より9.3ポイント増加した。
- ・「授業の中で目標（めあて・ねらい）が示されている」（番号4）の質問に対して「当てはまる」と回答した生徒の割合は75.6%で、昨年度より1.8ポイント増加した。
- ・「授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っている」（番号5）の質問に対して「当てはまる」と回答した生徒の割合は29.5%で、昨年度より3.0ポイント増加した。
- ・一方、「国語の勉強は好きだ」（番号6）については、「当てはまる」と回答した生徒は21.9%で昨年度より0.4ポイント増えているが、「数学の勉強は好きだ」（番号9）・「英語の勉強は好きだ」（番号12）については、「当てはまる」と回答した生徒は、それぞれ24.6%、25.7%であり、昨年度より0.8ポイント減少、1.7ポイント減少している。

■ 家庭での学習習慣の定着については、横ばいである。

- ・平日の家庭での学習時間（番号20）については、「2時間以上」の生徒の割合が昨年度よりも0.5ポイント増加、「30分未満」の生徒の割合は0.2ポイント減少であった。
- ・「家で学校の宿題をしている」（番号15）の質問に対して「している」、「どちらかといえばしている」と回答した生徒の割合は78.8%で、昨年度より1.0ポイント減少、「自分で計画を立てて勉強をしている」（番号16）の質問に、「している」、「どちらかといえばしている」と回答した生徒の割合は53.2%で、昨年度より1.0ポイント減少、とほぼ横ばいである。

■ 規範意識や自尊感情等については、横ばいである。

- ・「学校や社会のきまりや規則を守っている」（番号42）の質問に、「当てはまる」と回答した生徒の割合は57.9%（昨年度より0.3ポイント減少）、「自分には、よいところがあると思う」（番号47）の質問に、「当てはまる」と回答した生徒の割合は25.6%（昨年度より0.1ポイント減少）とほぼ横ばいである。

■ 携帯電話やスマートフォンの所持率が高まり、通話やメール、ゲーム等を長時間する生徒が多い。

- ・自分だけの携帯電話やスマートフォンを持っている生徒の割合（番号30）は77.3%であり、昨年度の74.2%より3.1ポイント、28年度の70.1%より7.2ポイント増え、年々増加し続けている。
- ・テレビゲームやスマートフォンを利用した通話やメール、インターネット等を利用する時間（番号28・29）は増加傾向にある。

改善プラン ～指導を強化する事項～

府学力診断テストや全国学力・学習状況調査の結果分析を活かした教育活動を展開し、質の高い学力をはぐくむ

□ 言語活動の質の向上を図り、「学びに向かう力」を育成する授業改善を進める。

- 生徒指導の三機能を活かした学級経営を基盤として、「書くこと」や話し合い活動等の言語活動を、各教科の特質に応じて授業に取り入れる。
- 思考力・判断力・表現力等をはぐくむために、言語活動を、ねらいを明確にして効果的に単元に位置付け、課題の発見、解決に向けた主体的・対話的な学びを充実させる。
- 実施が定着してきた授業の「めあて」と「振り返り」の研究を深め、「学びに向かう力」がはぐくまれ、各教科の勉強が好きだという生徒が増えるような授業改善を進める。

□ 児童生徒の学力向上を小中連携の視点で捉え、9年間を見通した指導を行う。

- 京都府学力診断テスト(小4・中1・中2)及び全国学力・学習状況調査(小6・中3)の結果から、児童生徒の学力実態や家庭における生活状況等の特徴や課題を把握し、小中で各教科の課題を共有し、小中連携の視点で組織的に学力向上に取り組む。

□ 家庭学習の一層の定着を図る。

- 各教科でノート指導や、調べたり書いたりする宿題を提示するなど、家庭学習の充実につながる指導を行う。
- 基本的な生活習慣の確立や学習習慣を身に付ける取組を家庭(保護者)と連携して、さらに充実させていく。スマートフォンや携帯電話に潜む危険性や家庭でのルール・使い方等について保護者への啓発を進める。

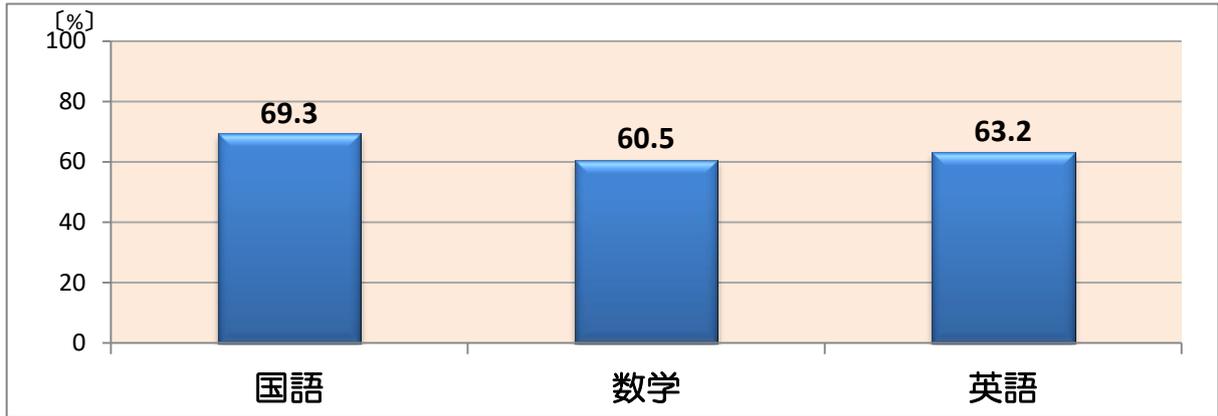
□ 自尊感情を高め、規範意識や豊かな人間性をはぐくむ指導の充実

- 授業を始め学校生活全体を通して努力の事実を評価し、周囲からの温かい愛情や信頼、期待を感じさせることにより、「包み込まれているという感覚」をはぐくみ、児童生徒の自己肯定感や自己有用感を高める。
- 規範意識や豊かな人間性をはぐくむために、道徳教育の充実や、「法やルールに関する教育」を進める。

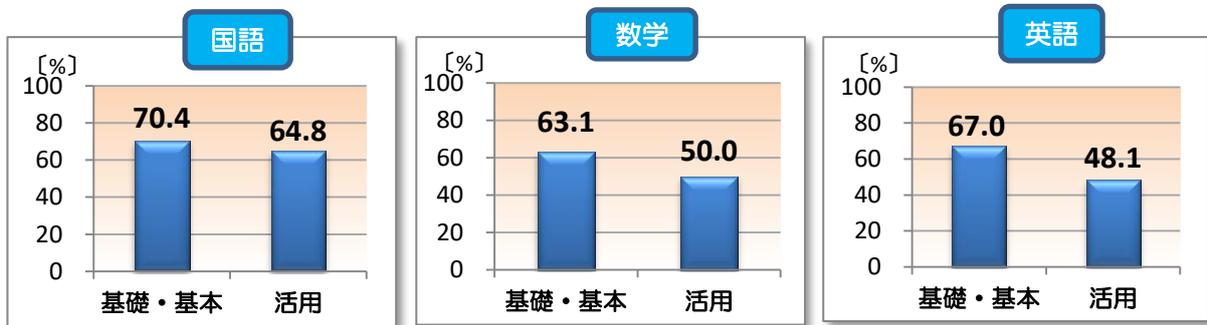
5 結果の状況（京都府全体）

(1) 教科別

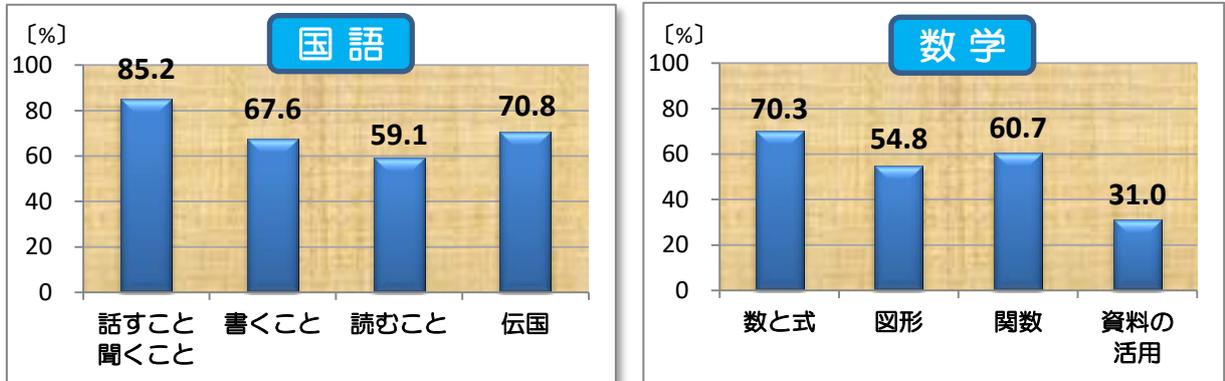
※数値はすべて正答率（100%）



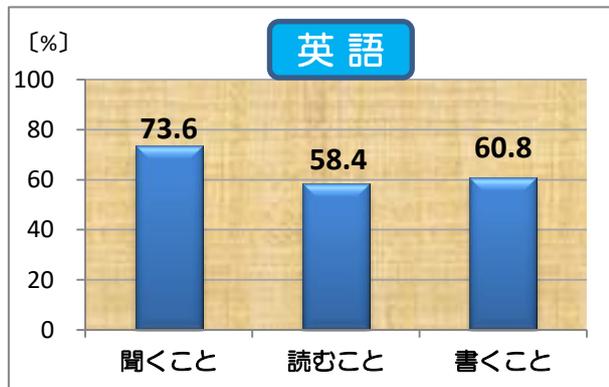
(2) 問題類型別（基礎・基本に関する問題 活用に関する問題）



(3) 領域別



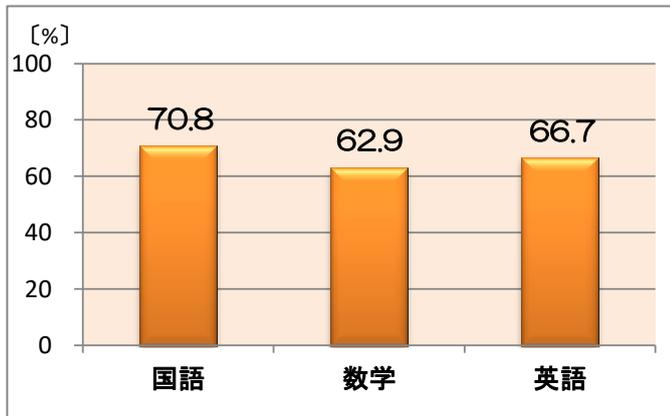
*伝国…伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項



(4) 教育局別平均正答率

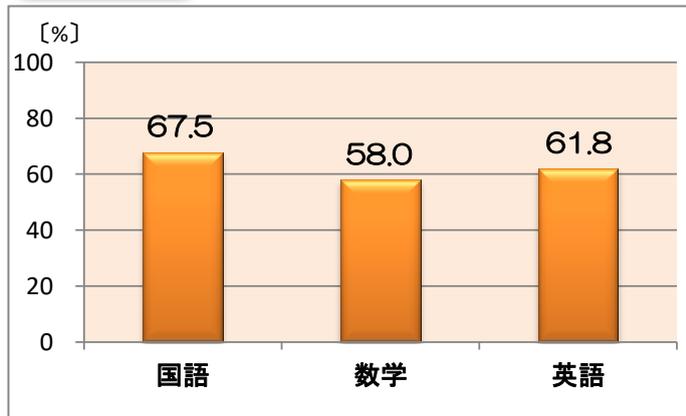
乙訓
(8校)

国語 (1,243 人 13.5%)
 数学 (1,242 人 13.5%)
 英語 (1,242 人 13.5%)



山城
(35校)

国語 (4,508 人 49.0%)
 数学 (4,509 人 49.0%)
 英語 (4,510 人 49.0%)



南丹
(15校)

国語 (986 人 10.7%)
 数学 (987 人 10.7%)
 英語 (987 人 10.7%)



中丹
(22校)

国語 (1,544 人 16.8%)
 数学 (1,544 人 16.8%)
 英語 (1,544 人 16.8%)



丹後
(12校)

国語 (757 人 8.2%)
 数学 (757 人 8.2%)
 英語 (757 人 8.2%)



() は、
 (受検者数 府全体の受検者数に占める割合) を表す。